

日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2015年度 助成者)

作成日 2015年 8月 23日

氏 名	甲斐 日向太
研修先機関名	<u>Hawaii Tokai International College</u>
研 修 期 間	2015年8月17日(月)～22日(土)
大 学 名	京都大学
学 年	5年

まず初めに今回のような貴重なプログラムに参加させていただき、またそのためのサポートをしていただき、大変ありがたく思っています。特に京都大学の小池教授には出国前にも直接会ってアドバイスをいただき非常にお世話になりました。京都大学からは自分ひとりという環境の中で、自分と同じ目的をもった仲間と切磋琢磨しあうという経験は生涯忘れられないものになるでしょう。その共通の目的というのは、海外で本当に使える英語を身につける、ハワイで活躍されているドクター達と交流し、勉強面以外のこともたくさん吸収する、という2つのことに絞れると私自身は考えています。では、その目的は達成できたかということ、まさに出来たと思います。プログラムの中にある多くのレッスンやレクチャーはほとんど英語で行われます。隣の学生とワークショップ的に話し合うこともあるのですが、その場合も英語です。このような機会は日本にはなかなかないと思います。

最も印象的だったのは、ハワイ大学(以下UH)の学生との問診のトレーニングです。これは計3日間あり、その日のプログラムの最後にあったのですが、私も含め皆、最も全力で取り組み、楽しんでいたと思います。UHの学生は medical school の M1-3 の方々で、ボランティアで患者役をしてくれます。その際に、私達はこれまでレクチャーで培ってきたノウハウを使い、ドクターとして、模擬面接をします。問診をうまくやるためにはもちろん暗記していないといけない部分もあるのですが、やはり **native speaker** なしでは、上達しづらい部分が多いので非常に貴重な体験だと思います。私はアウトプットのために1時間半ほどで、3人ほど問診をし、それぞれ、別室で控える現役のドクター達に問診の結果を報告しました。非常に質の高い訓練になったと思います。

また、ハワイで働かされているドクター(主に教育活動をメインにされているMDの方が多かった印象です)から様々なレクチャーを受けました。アメリカの医療について、プライマリーケアについて、オバマ政策について、アメリカ特有の疾患や合併症の考察について、どのような研修がハワイで行われているのかといった、バラエティに富む内容でしたが、それぞれのレクチャーのあとで毎回質問することができたのでよりいっそう有意義だったと思います。また少人数に対して教えてくださるので、その先生の人となりや英語を肌で感じる事ができて、新鮮でした。

ワイキキで開業されている、Dr.Kobayashi の St.Luke clinic を訪れた時には、そこで形成される日本人のコミュニティの強さに感動しました。ハワイに住んでいる方々は、ハワイのたくさんの人種が混在し、協力しあっている地域、これこそが未来の世界だと仰る方が多く、アメリカの本土とはまた違う文化の片鱗を見たような気がしました。少し脱線しますが、アメリカ本土の人種多様性とはハワイのそれは違うようです。ハワイでは皆がマイノリティだと仰っていました。

最後に、出会った同級生たちについて話したいと思います。参加者の中には USMLE の試験を受けた方はいらっしゃいませんでしたが、私と同じくらい USMLE のことで準備されている方も中にはいて、非常に刺激を受けました。またそうでない方々も、多様なバックグラウンドを持たれている方が多く、帰国子女や高校の1年間をアメリカで過ごされた方、社会人として航空会社で働いていらっしゃった方などとお会いしました。これらの種々の人脈や出会いがこれからの私の人生において重要な意味をもち、助けになってくれると信じて疑いません。このような機会をいただき本当に感謝しています。